

# 小野田町の文化財

## 第三集



荒沢の水ばしょう

小野田町教育委員会

## 発刊にあたって

平成3年から発掘をおこなっている葉菜山周辺の遺跡調査によると、今のところ最古で5万年くらい前から先人が生活していたと推測されます。長い小野田町の歴史を語る文化財や、人工を伴わない自然文化財がたくさん残されています。これらは先人の生活や時代の背景を物語る大切な遺産であり、保存・活用をはかって後世に伝えなければならないものであります。「小野田町の文化財」は昭和59年に第1集、平成3年に第2集を刊行いたしておりますが、この度は第2集までに記載できなかった神社・寺院や石碑、施設などに新しく民俗、樹木などを加えて第3集を発刊することになりました。

葉菜山周辺に待望の薬師の湯や林泉館ができましたうえに、ゴルフ場などのオープンも間近になり、他市町村からの交流人口もますます多くなることが予想される時に発刊された本書をはじめ、第1集、第2集も多くの方々に御愛読いただいて、町の文化財についての御理解を一層深められ、町内外の方々に御案内できるようになっていただきたいものと願っております。

編集に御尽力くださいました文化財保護委員並びに関係者の方々に心から御礼申し上げます。

平成6年10月1日

小野田町教育委員会

教育長 今野 信雄

## 目 次

●発刊にあたって

目 次

文化財案内図（第三集）

### I 城館跡

- 1 天ヶ岡城跡 (南鹿原) ..... 1

### II 神社仏閣

- 2 山の神社 (漆 沢) ..... 2

- 3 秋葉神社 (芋 沢) ..... 3

- 4 神明社 (味ヶ袋) ..... 4

- 5 八幡神社 (原) ..... 5

- 6 神明社 (原 町) ..... 6

- 7 地藏堂 (南鹿原) ..... 7

- 8 妙見神社 (城 内) ..... 8

- 9 八幡社 (下野目) ..... 9

### III 石 碑

- 10 下野目古碑 (下野目) ..... 10

- 11 五輪塔 (芋 沢) ..... 11

- 12 武家墓石 (東鹿原) ..... 12

- 13 子安観音像 (原 町) ..... 13

- 14 菅神碑 (小 瀬) ..... 14

- 15 番匠碑 (長清水・城内) ..... 15

- 16 望月号(種馬) (東鹿原) ..... 16

- 17 コレラ地藏尊 (小 瀬) ..... 17

- 18 板 碑 (東鹿原) ..... 18

### IV 街 道

- 19 一 里 塚 (下 区) ..... 19

20	原町の家並生け垣	(原 町)	.....	20
21	中羽前新道碑	(門 沢)	.....	21
22	道 祖 神	(東 鹿 原)	.....	22
V 民 俗				
23	菊 水 の 紋	(月 崎)	.....	23
24	雲 壁	( 雷 )	.....	24
25	釜 神	(長清水・小瀬・北鹿原・中嶋)	.....	25
VI 樹 木				
26	飯豊神社の杉と松の大木(下 区)		.....	26
27	不動尊のコナラ	(北 鹿 原)	.....	27
28	種 ま き 桜	(月 崎)	.....	28
29	サ イ カ チ	(小瀬・東鹿原)	.....	29
30	田谷地湿原のハンの木	(北 鹿 原)	.....	30
31	オンコの大木	(南 鹿 原)	.....	31
VII 沼・滝・風穴				
32	商 人 沼	(漆 沢)	.....	32
33	漆 沢 長 沼	(漆 沢)	.....	33
34	田 谷 地 沼	(北 鹿 原)	.....	34
35	黒 滝	(漆 沢)	.....	35
36	白 滝	(漆 沢)	.....	36
37	前 森 の 風 穴	(漆 沢)	.....	37
VIII 施 設				
38	漆 沢 ダ ム	(漆 沢)	.....	38
39	麓 山 浄 水 場	(東 鹿 原)	.....	39
40	薬 師 の 湯	(味ヶ袋薬菜)	.....	40
41	小野田浄化センター(下 区)		.....	41
	薬菜がんにん		.....	42





### 1～1 天ヶ岡城跡（南鹿原）

鹿原地内川底集落の南方山地、色麻町との境の天ヶ岡（412.4m）の山上に中世の天ヶ岡城があったと言う。どれほど実状を伝えているか不明だが、多賀城軍記天ヶ岡合戦記によれば、岩石丸の一子、北山刑部左衛門大正氏衡が築城したと伝えられ、大正氏衡が多賀城を攻略し、都に攻め上ろうとしたが、将軍藤原清経に破れ廃城になったとある。天ヶ岡城南麓小栗山には、将軍側の部将の戦死地に五輪塔や、その他の遺跡が見られるが、天ヶ岡城の城跡は不明である。平成5年11月に文化財保護委員による現地調査の結果、文化財地図に表記された場所にも、城跡の痕跡は見られなかった。謎の城、天ヶ岡城は何處にあったものか。



## Ⅱ～2 山の神社（漆沢）

当社は漆沢地内の漆沢ダムの入口の、北方杉林の中に鎮座する。祭神は大山祇神で、安永風土記によれば社殿は南向3間作りとあり、文政7年（1824）書上には、社殿東向三尺作りとある。明治5年には漆沢一村鎮守の村社として、社殿二間四面、氏子10名であった。当地の様な山を控えた地方には、山の神を祀る風習が多いが、漆沢は最上街道軽井沢越えの要所でもあったので、道中安全を祈願したものであろう。また当社は安産の神様としても近在に知られている。祭日は4月12日と10月1日である。



### Ⅱ～3 秋葉神社（芋沢）

芋沢地内の西端に在り、高い石段を上りつめた小高い山上に鎮座するが安永風土記には書上されていない。但し、神社明細牒によれば、祭神をおきつひこのみこと 窠津彦命・はやたまのみこと 速玉命・くまのふすみのみこと 熊野夫須命・すくなりこのみこと 少名彦命とあり、大崎氏の家臣が紀伊（和歌山県）の本宮より分霊したと伝えている。

明治5年には村社として、社殿一間四面拜殿三間四面であったという。以前この社は四神の内熊野神社を主祭神とし、熊野社と総称したが、80年程前の芋沢の火災の折、新たに火災鎮伏のため秋葉神を奉祭し、以後秋葉神社と称したという。境内の神木は300年から400年の樹齢と覚しく、神の森にふさわしい。社殿に続く高い石段は、当地の人々が田植踊りの御祝儀を基金として、奉納したもので110数段もあり誠に見事なものである。



#### Ⅱ～4 神明社（味ヶ袋）

この社は、味ヶ袋地内舞台に鎮座し、祭神はあまてらすおひるめのみこと天照大日靈命である。神社明細牒によれば社殿一間三尺四面境内250坪、信徒88人とある。明治5年無格社とし同41年薬菜山に合祀された。現在の社殿は東向きであるが、風土記によれば社地150坪、南向九尺作り鳥居南向、別当大宮、祭日は4月と9月の9日とあり、安永から文政に亘る50年の間に改築されたものと考えられている。





## Ⅱ～5 八幡神社（原）

この神社は字原の塚の上に鎮座し、祭神は応神天皇で祭日は4月と9月の15日である。以前社殿は東向一間四面拜殿二間四面で、広大な社地であったが、農地の基盤整備後は社殿のみ改築されて現在に至っている。本社は安永風土記には書上げられてなく、歴史的には比較的新しいもので、同所高橋勲氏の先祖が祀った邸内神であったという。現在原一円の氏神として尊崇されている。



## II～6 神明社（原町）

本社は原町の町並みから外れ、後方の水田の中に鎮座し赤い鳥居が目立つ。祭神は天照大神で神社明細牒によれば、社殿二間四面境内239坪氏子32戸とあり、風土記には社地南北20間東西18間、本殿南向九尺作り鳥居東向とある。勧請年号等不明であるが、当村中は伊勢の皇太神宮を尊崇し、毎年2人づつ村内より代参にて参拜していたが、後に寛永年中分霊を奉斎し祭祀したと伝えている。

明治5年村社とし一村鎮守となり、祭日は4月と9月の9日である。現社殿は最近改築されたものである。



## II～7 地蔵堂（南鹿原）

この地蔵堂は川底地内に在り、俗に川底地蔵と呼ばれているが、延命・子育て・身代り・とげ抜き・疱瘡平癒など幅広い信仰を集めている。安永風土記によれば、勧請年月不明とあり、本尊の作りは木佛座像高さ八寸五分、地主川底屋敷吉之丞で、祭日は4月と9月の24日とある。

地蔵菩薩は天空を象徴する虚空蔵菩薩に対し、大地の恵みを神格化したもので、左手に宝珠、右手に錫杖しよくじょうを持ち、死者を解脱げだつの道に導く姿といわれている。



## II～8 妙見神社（城内）

本社は城内照井に鎮座し、旧領主奥山氏の守護神である。旧鹿原道に南面して石の鳥居があり、北進し更に西進して社殿に至る。祭日は4月中の申の日で、以前は、家中の手により盛大に祭事が行われたと言う。奥山氏は中世時代相馬を中心に封じられ、守護神として妙見神社を尊崇したが、後に吉岡、次いで当地に移封されるに及び、本社も共に遷祀したものである。妙見神社の祭神は中国思想から発するもので北極星といわれ、国土を守り戦の際妙見の加護により大勝を得ると伝えられるので、奥山氏も多分この故事により祭祀したものであろう。





## Ⅱ～9 八幡社（下野目）

「小野田村沿革史」に南北朝時代の「貞和2年（1346）、小野田下野目藤沢に八幡社あり…」とあるので、相当古くより祀られたものと考えられる。

「神社明細牒」には、祭神、ほんだわけのみこと菅田別尊、社殿、一間三尺四面、境内89坪、信者40人とある。明治5年無格社に列し、明治41年須賀神社に合祀された。

当時、しばしば洪水にみまわれたため、この地は小高い丘になっていたらしい。現在では、下野目刈端74高橋家の屋敷の一角に「八幡神社旧跡（昭和8年建立）」の石碑が立っており、わずかにその面影を残している。



### Ⅲ～10 下野目古碑（下野目）

鎌倉時代、新興仏教により建立された卒塔婆<sup>そとうぼ</sup>で、鎌倉、南北朝の戦乱の中で、浄土信仰が広く普及したことがうかがえる。

古碑は、高さ約50cm、底辺約27cm、厚さ3cmの三角形の平らな石碑で、次の文字が刻まれており（一部判読不可能）、須賀八幡神社に納められている。

諸行無常

□□□□ 石塔□貞和二年六月

「小野田村沿革史」には、貞和2年（1346）遊行上人が下野目藤沢の地に建碑したと記載されているが定かではない。

この碑は近年まで下野目東田北58高橋家の屋敷の一角にあったらしく、現在その地に遊行上人を祀ったと思われる祠が立っている。

その他町内では、現在「門沢の古碑」など三基の古碑が見つまっている。



### Ⅲ～11 五輪塔（芋沢）

芋沢の植村地内の常陸哲氏の東方の水田の脇に、古い五輪塔が東向きに立っている。何時ごろのものか不明だが、高さ60cm、幅24cmで、台座には縁がとられ、塔の四面に何の像か不明だが浮彫りが施されている。この地は中世の常陸館の一角であり、常陸館を開いたとされる常陸坊海存ごんのかみ権守を祀ったものとの説がある。五輪とは仏教用語で宇宙の万物を構成するという五元素（地・水・火・風・空）の称で、五輪塔とは五輪を方（四角）円、三角、半月、団（球）の五つの形に表わして積み重ねて造った塔を、原則としている石塔の一種である。



## II～12 武家墓石（東鹿原）

東鹿原共同墓地の一隅に、17世紀前半の珍しい墓石がある。これは紺野左馬助夫妻のもので、笞むした自然石の碑面には「寛永18辛巳7月18日 家盛院徳本永寿居士 心開院芝蘭清香大姉 同年10月同日 左馬助」と、二列に刻まれている。

今野（紺野）家は若狭を先祖とし、鹿原小屋館（別称川口館）館主と伝えられ、代々鹿原肝入を勤めた家柄である。因みに安永5年当時の当主は新六と称し宝暦7年（1757）より肝入を仰せつかっていた。当家は江戸時代に帰農している。





## Ⅱ～13 子安観音像（原町）

県史宗教篇（仙台藩切支丹史）に原町区、長昌院の子安観世音画像が紹介されているが、町史としても誇り得る文化財である。

現在、その画像の所在が不明であるがその代わり、彫刻像が安置されている。問題は何故に外国人の母なのか興味深い。即ち幼児を胸に抱いて両足を組む日本婦人にしては考えられず、あぐら姿は江戸時代の女房にしては不作法である。仏像を模して外国生れの聖母の和服姿と見るのが自然であるといわれている。ところで子安観音は地藏様などと呼ばれ、幼児を抱いている古い像の多くは徳川時代に、切支丹信徒の迫害の中にあって、信仰を秘めて作られたものが多い。その代表例が東和町米川のキリシタン弾圧である。



## Ⅱ～14 菅神碑（小瀬）

この碑は以前小瀬と芋沢の分岐点に建っていたが、後年国道の改修に伴い小瀬新丁の現在地に移転した。この碑は文化・文政年間当地方の子弟を教育した藤原篤翁の学徳を偲び、その門人百有余人が文政11年6月5日（1828）建立したもので、碑には題字「菅神碑」とあり、銘文に「32世八木相丞源基明謹書」とある。藤原篤翁の出自とその後の消息及び八木相丞についても不明であるが、菅神碑の題字は見事なものである。菅神碑とは学問の神様菅原道真公（903. 太宰府で死歿）を祀った碑で現在でも受験者の守護神として尊崇されている。



法昌寺山内の番匠碑

子安地藏尊の境内の番匠碑

## II～15 番匠碑（長清水）

この番匠碑は、長清水の法昌寺山内の観音堂参道にあり、「天保2年8月建立」とある。この碑には氏名が刻まれていないが、当地方に屋根葺の技術を伝えた師匠の徳を慕い、指導を受けた人達が建てたものと伝えられている。番匠碑の中でも屋根葺の師匠とは珍しいものであろう。

### 番匠碑（城内）

町内原道端屋敷高橋源一氏の東、町裏道路の奥に子安地藏尊の祠がある。その境内に立つ大きな自然石がこの番匠碑である。この碑は高橋七藏翁の教授を受けた門人一同が、報恩のため明治9年4月建立したもので、同翁は高橋源一氏の祖先であると云う。

昔はこの祠の前が小野田の旧道で、子安地藏尊の祭日には参詣の人々で、大いに賑わったと伝えられている。





## II～16 望月号（種馬）（東鹿原）

鹿原御伊勢宮囿（出都）の町道青野線と北鹿原線の分岐点に、堂々とした自然石が立っている。碑面に「大正3年8月 望月号之碑 大領書」とある。鹿原は昔から名馬の産地で、谷地袋地区には牧場と呼ばれる湧水の豊富な放牧地もあり、馬の生産には最も適した所であった。

下総御料牧場産（千葉県）の「望月号」が優秀な種馬として当地に迎えられ、百余頭の繁殖に貢献し、馬産地としての小野田の名聲を高めたことを讃えて、この碑が建立されたもので、当時郡内小学校長を歴任された当地出身の小松謙治氏の撰文である。





## II～17 コレラ地蔵尊（小瀬）

この地蔵尊は、大の原集落の北方に在り、大の原丘陵の南斜面麓（字原北谷地一番）に南面して立つ供養塔である。この塔は高さ1.2m幅厚さ各0.6mの一見円すい型の大きな自然石で、台座も同じような自然石である。碑面には「南無阿弥陀佛」とあり、左脇に「明治15年克列刺ニテ死亡者火葬場ニ於供養一村中」と二列に刻まれている。当時全国的にコレラが大流行し、当町においても上野目の皆伝寺を臨時の避病院に充て、収容患者の治療に努めたが、重患者は大の原の通称テッショ森に移して施薬したと言う。死亡した者は此の地に於て火葬に附した。後年一村中で供養塔を建て、コレラ地蔵尊として供養した。なおこの火葬場跡は開拓以前、石を敷きつめた広場になっていたが今はない。



## II~18 板碑（東鹿原）

この板碑は鹿原北浦団にあり、粘板岩の表面種子の下に「主尊名聖観音菩薩」と読める字が刻まれてあるのみで、祈願証文・造立年月・偈頌（佛の恵みを頌えたお経や歌）は磨耗して判読できない。元来板碑は供養塔婆で、正面の上部に種子（佛の教えを求める心）その下に造立月日・祈願証文。偈頌を添えているものだが、この板碑は熊野神社由来記によれば、「天和年間（1681-83）聖坊なる修験者、神の啓示なるを以て熊野大権現の御神体を背負い奉り、葛西家旧臣居住地に至り、川久保の地に宮を定めた云々」とあり、極めて由緒の深いものと考えられている。



#### IV~19 一里塚（下区）

多賀城から最上に通じた道は、中世以前から軍路として、交易路として、また信仰路として開かれていた。しかし近世期の最上街道は、仙台藩の交通制度の中で整備されたもので、一里塚もこの制度により設置された。

仙台北下北目町から数えて、色麻を経て11里塚が小野田下河原に、12里塚が原町南双に13里塚が小瀬原に、14里塚が漆沢石坂に15里塚が漆沢口に、16里塚が同下堀切に、17里塚が軽井沢にそれぞれ設置されて、通行の指標と安全に資した。

現在小野田下河原の11里塚にわずかに旧蹟を止めている。





#### IV～20 原町の家並み生け垣（原町）

町内の原町は国道の両側に沿って東西約550m、各家々ではヒバの生け垣を植栽し、整然と刈り込んでいる。昔数軒が武家屋敷に習って造成したものといわれ、特に当地は藩政時代は最上街道の宿場でもあり、町並みの美化に努めたものであろう。因みに当区の池田家は安政年間に25代加美郡大肝入を勤めた家柄であった。その後明治43年に大火に見舞われ町の大半を失い、次いで再度の火災もあったが、町の復興と共に火災予防上からも更に見事な生け垣の造成を行ったものと思われる。近年までこの生け垣に添って道路の側溝には、こんこんと泉が流れていたが、水田整備後は泉水も少なくなった。





#### IV～21 中羽前新道碑（門沢）

本碑は明治34年11月に、中羽前新道の開通を記念して、町内上区の町頭に建立されたものであるが、土地区画整理に伴い、門沢間坂地内の発電所西方の国道脇に移転された。碑は高さ3m、巾1.5m、厚さ0.2mの大きなもので、碑文には新道開発のいきさつ、工事模様、経費関係特に企画主唱者等が刻まれており、本工事が宮城・山形両県の合同事業として明治23年8月着工、同25年11月竣工に至るまで、両県有志及び町民更には関係者等が、一致協力して大事業の完成を見たもので、その偉業が偲ばれる。



#### IV～22 道祖神（東鹿原）

東鹿原の神明社にある道祖神は、男形を模して祀られている。道祖神は産神の一つであり、安産祈願のウブガミとしてお産に立ち合い、生児を守護する子安神が本来であり、また佛教と習合して中世以降は子安地藏、子安観音の名で信仰され、子供の加護を願う庶民には、有難い身近な神（佛）である。

なお、道祖神は民俗学的には、一般に「サヘノカミ」と呼ばれ「塞」である。防塞の神であるから外から来襲する悪魔を、村境・峠・辻・橋のたもとなどで防いだので、後に行路の神・縁結びの神・子安神と発展し、村の守護神となったものである。



### V~23 菊水の紋（月崎）

月崎区、内海襲人家に伝わる膳や椀、それに唐金火鉢からがねのぼちに刻銘されている菊水の紋入りは、南北朝時代（14世紀）後醍醐・後村上天皇に味方した南朝方忠臣の象徴である。（例 楠木正成）当家は朝日山城（旭館）の分家である。内海家系譜によれば旭館主の初代は内海弾正重貞（鎌倉初期-13世紀前半）、最後の領主は14代小野田玄蕃隆重（戦国時代-16世紀後半）とされているが、菊水の用具は6代小野田式部丞康重（南北朝時代初め）が拜領し、その使用を許可されたと思われる。「6代康重建武2年（1335）奥州鎮守府將軍北畠顕家（南朝側）ニ仕エ白川関合戦討死」と同系譜に記載されている。





#### V～24 雲壁（雷）

この雲壁は町内雷区の佐々木健税氏の家にあります。当地方においては特異なものである。同家の奥座敷の床の間の正面斜め左に、上下半円状に黒い葛模様の絵が描かれ、また半円の縁は紫色に彩られ、半円の上の方には鱗雲とも思われる模様が、また下の方には細波の文様とも見られるものが描かれています。

佐々木家は前代佐々木家絶家の後継といわれ、その名残りの置土産であろうか、珍しい床の間雲壁である。なおこの雲壁は「壁画」とも思われるもので旧家の座敷や土蔵の白壁などに見られる芸術品でもある。





小山与吉氏宅の釜神（北鹿原）



吉岡成美氏宅の釜神（小瀬）



橋本金太郎氏宅の釜神（長清水）



澁谷幸太氏宅の釜神（中嶋）

#### V～25 釜神（小瀬・長清水・北鹿原・中嶋）

戦前の農家に祀られていた信仰用具であるが、民俗学的には家の火所（火床）である炉や竈（釜戸）を守る神様である。何れにしても釜をかける所に納められ、中には神棚を設けて神符や幣束を飾り、正月に餅や御神酒を供える。即ち、年末に煤を払ってシメ縄を張り、釜神の目を磨き、墨で黒眼を描き入れる家もあった。釜神の面は恐ろしい顔であり、釜男ともいわれる。主として家を建てた時に大工や左官が作ったというのが素朴な表現である。土製と木製が多く、土製には眼に鮑の貝殻あわびや瀬戸物をはめたり、縄の鉢巻をしめたりしている釜神もあった。昭和63年の調査によれば、町内には50体くらい確認されている。民俗文化財として永く保存していきたいものである。



#### VI~26 飯豊神社の杉と松の大木（下区）

郷社飯豊神社（延喜式内社）は、今から1288年前慶雲2年（705）に祀られ、ついで多賀城国府の鎮守府將軍大野東人が社殿を建立したと伝えられている。郡内では宮崎町の賀美石神社と共に最古の社として知られている。明治5年には郷社として別格され、御祭神保食神を祀り産業開発の神として信仰厚い神社である。境内には多くの大木が生い茂り、中でも杉と松の古木は見事なもので、平成4年に町指定の文化財となった。

1. 杉 樹種科名スギ科、樹種名スギ、推定樹齢530年、幹周5.5m  
樹高30m
2. 松 樹種科名マツ科、樹種名アカマツ、推定樹齢300年以上、  
幹周3.9m、樹高30m、所有者：飯豊神社（字麓山1-7）



#### VI~27 不動尊のコナラ（北鹿原）

鹿原南滝庭に俗に大滝と呼ばれている荒沢の滝があり、滝の上に不動尊のお社がある。桓武帝の代（782~805）田村麻呂將軍奥州に下向の際円乗坊教存に命じて祀ったものと伝えられ、信仰を集めている。境内には杉や松の巨木が多く。中でもコナラの大木は見ごとなもので、県内にも数少ないといわれ貴重な木である。

樹種科名ブナ科、樹種名コナラ、推定樹齢100年以上、幹周2.6m

樹高19m、

所有者：大滝神社（南滝庭）





#### VI~28 種まき桜（月崎）

葛西氏家臣で一族の内海重成の子重貞は、建久2年（1191）月崎の荘に朝日館を築城、その子孫代々この地を居城としたと言われ、現在内海今一氏がその子孫と伝えられているが、敷地内には桜の古木があり、地域の人々は、種まき桜と呼び稲モミを蒔く時期の目安としている。花満開の時は、実に見事なものである。

樹種科名バラ科、樹種名エドヒガンザクラ、推定樹齢300年以上

幹周5.1m、樹高10.1m、

所有者：内海今一氏（月崎見当20）





#### VI～29 サイカチ (東鹿原、小瀬)

東鹿原出都の工藤家は代々続いた旧家で、その屋敷内にあるサイカチは誠にみごとな巨木である。昔はその実を洗剤として各家庭で利用された。いまなお樹勢も良く、これほどの古木も少なく年代を感じさせる。

一説にサイカチは「再勝ち」に相通ずる意であり、奥州総奉行であった葛西氏が戦国時代滅亡したので、その旧臣の子孫が主家の再興を期して植えたものといわれている。なお小瀬下原の早坂富夫氏の入口にあるサイカチも巨木である。

樹種科名マメ科、樹種名サイカチ、推定樹齢300年以上、幹周5.9m  
樹高12.1m、

所有者：工藤廣志氏(下北村9)



#### VI～30 田谷地湿原のハンの木（北鹿原）

田谷地湿原のハンの木群落は、南滝庭から西方2 km地点大滝川の傍にあり、湿原一帯に広がるハンの木の群生はすばらしく、更に春先根元に咲き揃う水ばしょうの白と相まって見事なコントラストをなしている。

ハンノキは「櫨」の漢字が当てられており、生長が早くて数年で大きな木になる。本材は乾燥すると堅い材質で、建築用としては敷居とか炉端あてぎの当木に用いられた。



#### VI~31 オンコの大木（南鹿原）

鹿原下川底の常陸家は代々続いた旧家であり、屋敷内にあるオンコの大木は、みごとなもので町内にも数少ない古木である。オンコは普通大木にはならないので、当地では専ら観賞用に植栽されたようだ。

樹種科名イチイ科、樹種名オンコ、キャラ又はアララギとも云う、  
推定樹齢200年、幹周1.2m、樹高5.9m

所有者：常 陸 敬 一 氏（鹿原下川底11）





Ⅶ～32 <sup>あきんど</sup> 商人沼（漆沢）

<sup>やなぎとろ</sup> 柳瀨の西方の逢の峯の山中にあり、国道347号線の廻り橋の北方に当る。現在この沼へは林道が通じている。昔この沼は旧街道吹越し越えの中間であった。軽井沢御足軽書出によれば、「商人せなかいちト申者此沼へ荷物投捨候ニ付……此謂ヲ以商人沼ト名付候由申伝候」と記されており、藩政時代の商人沼は人馬の通行は差止められていた模様で、相当な荒所であり隠道の一つであった。沼の水は南に流れ外川に合して用水になったと沿革史にあるが、入り水も少なく水量は乏しい。周囲130間（約235m）。





### Ⅶ～33 漆沢長沼（漆沢）

軽井沢川が柳滞の東方で、鳴瀬川の支流筒砂子川に合流する手前の、細長い沼がこの沼である。県境半森山を源流とするこの川が、明月峠その他の沢々を集めてこの沼に注ぐので、水量も多く川魚等も豊富である。「沿革史によれば鹿原長沼に対し漆沢長沼と称し、周囲200間（約370m）であるという。沼の落口を長さ12間（約22m）高さ7尺（2m）に堰止めて全村の用水となす」と、記されているように、鳴瀬川渇水時には欠かせない用水源である。



#### Ⅶ～34 田谷池沼（北鹿原）

田谷地沼は南滝庭から西方1.5kmの地点、大滝川の傍にあり、昔より用水として利用されてきた。またふなや鯉などが多く釣人達の憩いの場としても賑わっている。

今では遊歩道などが完備され、観光のメッカとして多くの人々の観光の場として賑わいを見せている。

近くに中世の古館、滝庭小屋館（別称田谷地館）があり、一帯は縄文時代の遺物も多く、田谷地北・南遺跡として県に登録されており、自然・歴史両面の文化財価値を有する田谷地沼でもある。



#### Ⅶ～35 黒滝（漆沢）

鳴瀬川上流の朝日、夕日の落合より、朝日川に沿って遡ること1 km、黒滝をみることができる。昔は鱒がこの滝まで遡上したと伝えられているが、今は堰堤やダムができてその姿を見ることはできない。

このあたりは船形連峯御所山県立自然公園で、荒神山も近くブナの原生林も残されている。北に前森をのぞみ東に黒森の眺望は、この滝と共に実に神秘的である。この滝には漆沢ダムを經由して車道を上り、土倉沢からは鳴瀬川岸に添って遡行するのがよい。



#### Ⅶ～36 白滝（漆沢）

船形連峯御所山県立自然公園の前森の、左尾根斜面を流下する白滝も見事な景観である。特に春は水量も多く新緑の合間を縫って落下するさまは壮観である。このあたりブナの原生林も残り周辺はカモシカや熊の繁殖地としても知られている。急斜面を落下する滝の長さは約50mにも及び、流れて黒滝と共に朝日川となり夕日川と合して鳴瀬川の源流となる。この滝には黒滝と同様に鳴瀬川岸を遡行するのがよい。





#### Ⅶ～37 前森の風穴（漆沢）

漆沢ダムから鳴瀬川を遡り、辻倉沢に添う林道を上りつめ30分程度で前森の東麓に着く、更に徒歩15分で前森の裾であるが、この一段窪んだ一帯が風穴と称される場所である。この風穴は昭和の後半に発見されたもので、一般には洞穴を想像するが、この風穴は深い沢地に前森が崩壊して岩石が推積してできたもので、この一帯に入ると周囲と異なりヒヤリと冷気を感じる。これは推積した岩石の下方に冷たい空気があり、表面が太陽熱で暖められることにより、空気に対流現象が生ずる結果であるとされている。この一帯は他の周辺と異なり10度程の温度差があって、一般の植生も異なっており、このあたり標高650m程であるが、船形山頂（1,500m）等と同様な植生が見られる。



#### Ⅶ～38 漆沢ダム（漆沢）

漆沢ダムは昭和45年ダム本体の建設に着手し、13年の歳月を費して、同56年3月に完成した中央コア型ロックフィルダムである。

このダムは鳴瀬川の本流と唐府川の合流点から漆沢区の西端に及ぶもので、高さ80m総貯水量148万 $\text{m}^3$ の巨大なダムで、洪水調節・上水道・工業用水・発電用に供され、大崎・栗原・黒川地区の17市町村の上水道と、大崎黒川地区の工業団地の工業用水の水源となっているほか、県北穀倉地帯を潤し経済文化の母なるダムでもある。ダム周辺は四季を通して風光に恵まれ、ダムと共に一大観光地となっている。



#### Ⅷ～39 麓山浄水場（東鹿原）

麓山浄水場は、漆沢ダムを水源として建設された県営による広域水道供給施設で、昭和53年5月完成し同55年4月から給水を開始した。ダムの下流6kmに取水堰を設け、ここで取水された水は沈砂池を通り、約9kmの導水路により鹿原小山地区の麓山浄水場に導入される。この浄水場は宮城球場の約2倍もあり、取水・浄水・送水量などテレメーター、テレコントロール装置により常時把握調整されるほか、総ての浄水施設が完備し、大崎・栗原・黒川地区17市町村の用水として供給され、また共同施設として同浄水場内の工業用水配水池から、専用配水管によって仙台北部の各工業団地に給水されている。



#### Ⅷ～40 薬師の湯（味ヶ袋薬菜原）

ふるさと創生事業として町がボーリングした温泉で、平成5年12月オープンした。この温泉は薬菜山の東麓にあり、船形連峯はもちろん大崎耕地が一望できる景勝に恵まれている。

豪華なロビーは定評があり、男女各々100名が一度に入浴できる大浴場をはじめ、ジェットバス・うたせ湯など多彩な設備の他、大広間・個室・展望台・レストラン等も完備し、オープン以来連日大勢のお客で賑わっている。





#### Ⅷ～41 小野田浄化センター（下区）

鳴瀬川の最上流に位置する小野田町は、鳴瀬川の水質保全の目的から、小野田浄化センターを町内町東に建設し、平成6年4月より供用を開始している。この施設は最終沈澱池塩素混和池、汚泥濃縮槽、汚泥貯留槽、汚泥脱水機棟のほか、管理棟等から成るもので、下水排水は分流式、処理方法はオキシデーションディッチ法により、平成17年を目標に1日平均2,280㎡の汚水処理を行うものである。

# 薬菜がんにん

本間洋子採譜

♩ = 40-46

ころ--はナ、しが--つ--のよ--か--の--

ころ--にナ ななじゅばかりの ばあさんが -- あまたのまごこ

ひきつれて いそぎいそいで はらのもち あじがふくらむ

とほりぬけ やく--らいさんへと のほりつめ こたかいとこ--に

こしをかり おきまほるかに ながむれば おきにみゆるは

さんがさん おしかのふしだとかたかんのこほりは

めのしたに なかにちきこゆる けこむら にしのめたよと

ながむれば あれはりくせん りくらのくに--ごかい

みなみのかたよと ながむれば あれはくろくめ ななつもり

ななつのもりの ななやくし なつおんきびしき なおなれど

きたのかたよと ながむれば あれはみやごき くまのもり

それトフズいてあひだむら あしもとをながゆる なるせがめ  
 なが - れ - て ナ  
 れ てヨ ヤンサラムよ --- て' もヨ アリラン  
 きたよま こないよま' なもかけ' さすよま'  
 ななつにいちたす ヤ---と---せ

## 葉菜がんにん

頃はナー四月の八日の頃にナー  
 七十ばかりのばあさんが  
 あまたの孫子を引きつれて 急ぎ急いで原町  
 味ヶ袋を通り抜け葉菜山へと上りつめ  
 小高き所に腰をかけ 沖をはるかに眺むれば  
 沖に見ゆるは金華山  
 牡鹿 桃生 志田 遠田 加美の郡は目の下に  
 中にも聞ゆる色麻村  
 西の方よとながむれば あれは陸前陸羽の国境  
 南の方よとながむれば  
 あれは黒川、七ツ森七ツヶ森の七葉師  
 稜願きびしきかなれど  
 北の方よとながむれば  
 あれは宮崎熊の森 それに続いて小野田村  
 あしもとを流るる鳴瀬川  
 流れナー 流れてヨー  
 ヤンサ海までもヨ  
 アリラン来たよで来ないよで  
 おもかけさすよで 七ツに一たす八ツとこせー

## あ　と　が　き

小野田町の文化財保護委員会が設立されてより、早20年余年にもなりました。その間、社会生活情勢の変化と共に、町民の文化財に対する認識も一段と高まり、地域の歴史を学び、地域文化の啓発に関心が寄せられつつありますことは、誠に喜ばしいことと存じます。

さて、当委員会の発刊する「小野田町の文化財」も、委員や関係者は勿論、町民のご協力をいただき、第3集の刊行を見ることができました。

どうぞ本町の文化財の理解に、大いに活用していただきますよう期待いたします。

平成 6 年 10 月 1 日

小野田町文化財保護委員会

委員長 畠山 勇 一



編集委員

小野田町文化財保護委員会

委員長 畠山勇一

委員 吉岡成美

委員 大宮信

委員 小松仁三郎

委員 伊藤貴陸

前委員 米川今一

小野田町社会教育課

課長 矢萩安夫

補佐 吉岡善太郎

小野田町の文化財 第三集

平成六年十月二十日 印刷

平成六年十月三十一日 発行

発行者 小野田町教育委員会

宮城県加美郡小野田町字内谷地二九一

印刷 有限会社 大宮印刷

宮城県加美郡中新田町字町裏三九〇の一

電話 (〇三六) 六三一三〇七八



荒沢の滝